

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第6号については最新の台風予報を参照。
- 6日から10日にかけて、高気圧がオホーツク海に停滞する。
- 6日から7日にかけて、気圧の谷が北日本を通過する。
- 6日から10日にかけて、低気圧が東シナ海から千島の東に進み、前線が日本の南にのびる。
- 9日から10日にかけて、次の前線が沖縄・奄美へのびる。

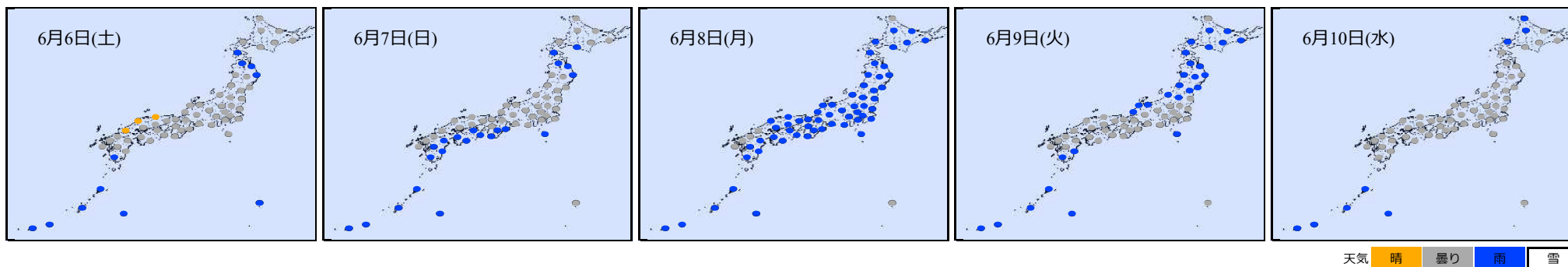
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

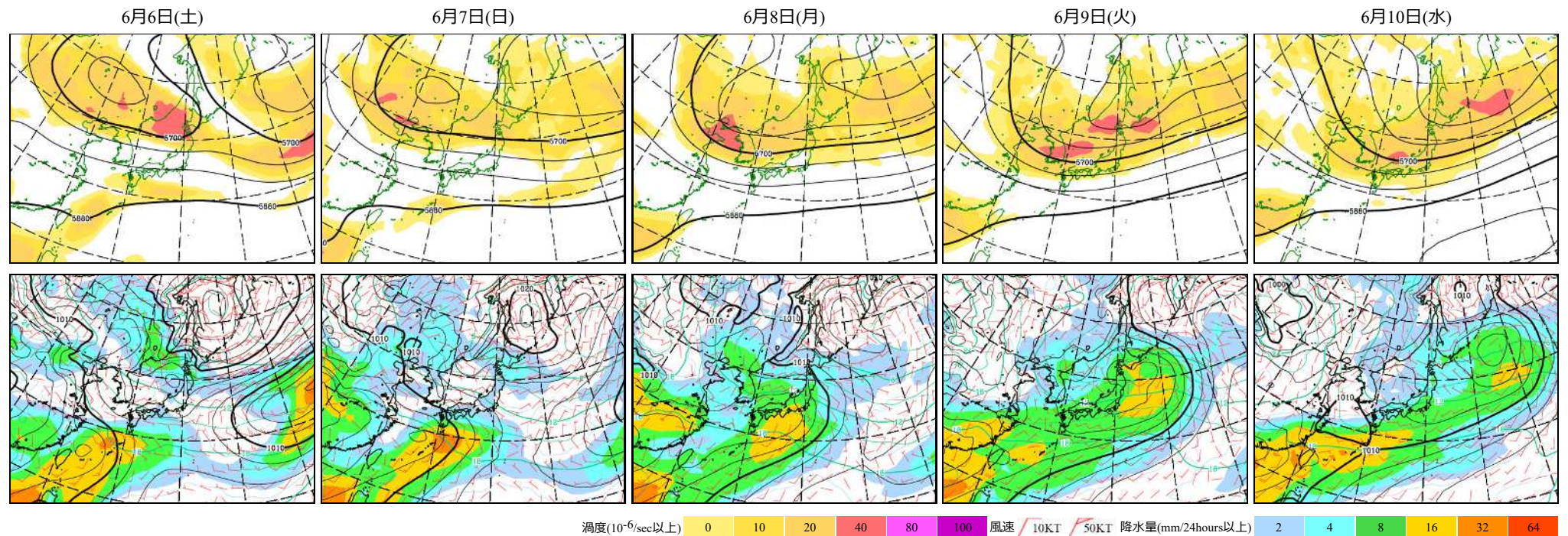
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

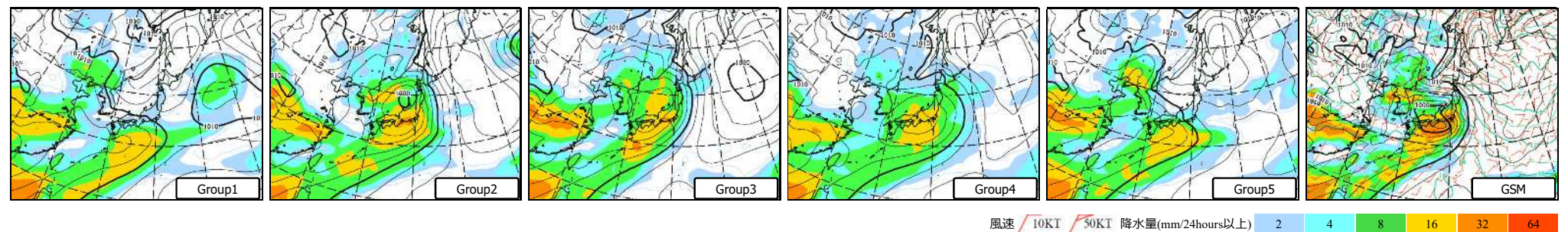


- 全国的に、曇りや雨の降る日が多いが、6日は西日本で晴れる所もある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月8日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、大きな初期値変わりはないが、オホーツク海の高気圧が明瞭化し、期間終わりに日本付近を通過する低気圧が明瞭化し遅くなった。
- 7日の低気圧の位置は、日本モデルとNCEPが近く、種子島・屋久島の西方。ECMは四国沿岸。日本海で低気圧あるいは低圧部が発生するのは、GSMは9日、海外モデルは8日、EMSは両方の予測が含まれるが、低気圧の発生位置等には違いが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、初期値変わりが小さいENSを基本に考える。